

事業所における自己評価結果 児童発達支援（公表）

事業所名：多機能型事業所 いすみ・ぷれも

公表：令和2年5月14日

和元年12月4日～令和2年1月11日実施 回収率92.3% 12/13

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標・工夫している点
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切であるか	10	2	・基準は満たしているがグループの時など狭いと考えているので今後パーティションを広げる工夫をする。
	②	職員の配置数は適切であるか	11	1	・職員の配置数に関する周知が不完全だったので、今後周知徹底に努める。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	11	1	・子どもが2階への上り下りをする際は、大人が手をつないで行うこととしている。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動にあわせた空間となっているか	11	1	・療育中に子どもが集中できるようになるべく物は収納している。 ・玄関、各部屋にアルコール消毒液と次亜塩素酸噴霧付加湿器を設置して、清潔を保つようにしている。 ・掃除表に掃除した職員を記入するようにしている。
業務改善	⑤	業務改善を進めるための、PDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	11	1	・朝礼で連絡事項を伝えあうことや定期的なケース会議を行い支援の目的や支援方法その業務改善等を共有しPDCAを実施している。
	⑥	保護者等向け評価表より、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	12	0	・療育についての具体的なアンケート調査を行い、療育計画等を改善し組み立てている。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を実施するとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11	1	・事業所ホームページに、自己評価を公開する。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	12	0	・年2回第三者委員会を開催し、業務改善につなげている。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11	1	・外部講師による研修や内部の専門分野の指導による勉強会を通して、職員の専門性の知識の習得に努めている。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	12		・支援計画は、指導者がケース会議を開き熟知した後保護者に報告し、児童支援管理者が児童発達支援計画を作成している。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	11	1	・本事業所では新版K式発達検査等のアセスメントツールを使用しているが、他の専門機関での検査結果を保護者から提供される場合もある。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	12	0	・子どもと保護者のニーズの把握とその分析を行い子どもへの的確な療育内容を作成し療育を行っている。 ・ガイドラインに沿って、本人、家族の地域支援を行っている。 ・必要に応じて、保育園や幼稚園、保護者や各公的機関と連携をとり、支援をしている。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援がおこなわれているか	12	0	・支援計画に沿った支援を行っている。 ・療育後、保護者に利用者の様子や指導内容等を伝えていく。 ・保護者の意見を聞き入れ、より良い支援に努めている。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	12	0	・支援チームで年間プログラムを作成し、子どもと保護者の長期目的達成に向けて療育を行っている。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	12	0	・常に子どもや保護者のニーズに応じて行き固定化しないよう工夫している。

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標・工夫している点
	⑩⑥	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	12	0	・子どもの発達にあわせて個別と集団の活動を組み合わせて行っている。
	⑩⑦	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	11	1	・充実した支援を行うために、療育の間の空き時間や職員の打ち合わせで教育内容を話し合い療育の準備の時間で確認している。
	⑩⑧	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	12	0	・支援終了後に支援者で支援の振り返りを行い次の支援に生かせるようにしている。
	⑩⑨	日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	12	0	・記録は毎日療育終了後に行っている。 ・記録は支援の検証と改善を記入し次の指導に生かしている。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑩⑩	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	12	0	・年2回以上のモニタリングを行い、支援計画の見直しをしている。
	⑩⑪	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	12	0	・障害児相談支援事業所のサービス担当者会議には、管理者・担当指導員等が参画している。
	⑩⑫	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	12	0	・母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関とは密に連携をとっている。
	⑩⑬	(医療ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携体制を整えている	10	2	・現在は医療的ケアの必要な子どもは支援していない。受け入れる場合には、主治医や関係機関との連携体制は整えている。
	⑩⑭	(医療ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	10	2	・現在は医療的ケアや重症心身障害のある子どもは受け入れていないが、地域の教育機関等との連携体制は整えている。
	⑩⑮	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	12	0	・保育所、認定こども園、幼稚園とは支援内容等の情報共有して相互理解をしている。
	⑩⑯	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	12	0	・小学校等への学校訪問や小学校の行う支援関係会議の参加を通して支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。
	⑩⑰	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	12	0	・医療も含めた専門機関と連携をとり、積極的に外部の専門研修なども受講している。
	⑩⑱	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や障害のない子どもと活動する機会がある	10	2	・事業所に利用されているほとんどの子どもは通常幼稚園や保育所に通われている。
	⑩⑲	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	11	1	・地域の関連会議に参加している。さらに幅広く参加させて頂けるように働きかけている。
	⑩⑳	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状態や課題について共通理解を持っているか	12	0	・子どもの療育の時以外でも、面談や書面などで保護者と共通理解を持つようになっている。
	⑩㉑	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援をおこなっているか	11	1	・日々の様子を共有をする中で、保護者の悩みや課題に寄り添うようにしている。また、令和2年度はペアレント・トレーニングを行う予定である。
	⑩㉒	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	12	0	・契約時に全て説明し、療育的な活動方針も伝えている。
	⑩㉓	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	12	0	・児童発達支援ガイドラインについて保護者に説明する機会を催すことを検討している。 ・保護者の要望も取り入れ児童発達支援計画を丁寧に説明して同意を得ている。

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標・工夫している点
保護者への説明責任等	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	12	0	・事業所でも対応もしくは電話での対応体制を整備している他、必要に応じて面談の時間も設けている。
	③⑤	父母会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援をしているか	12	0	・保護者会は、年に2回開催する。さらに、保護者同士の連携を支援する内容に工夫していく。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速にかつ適切に対応している	12	0	・事業所でも対応もしくは電話での対応体制を整備しているほか必要に応じて面談時間も設けている。 ・申し入れにも職員間で発生原因と改善策を共有し、迅速に対応している。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制の情報を子どもや保護者に対して発信している	12	0	・月1回”いすみ・ふれもだより”を発行して保護者に配布している。
	③⑧	個人情報に十分に注意している	12	0	・個人情報については日頃から職員間で共通確認しながら配慮している。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	12	0	・子どもや保護者の行動の様子から思いを読み取るようにしている。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	11	1	・自治会に入会している。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	12	0	・防犯マニュアルは、職員が周知し、発生を想定した訓練を実施している。 ・緊急時対応マニュアル、感染症対応マニュアルも策定し実施する。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出そのほか必要な訓練を行っている	12	0	・月に1回は、予告なく不意の職員個々の適切な判断を要求する避難訓練を実施している。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	12	0	・入所時に服用等保護者の確認を得ているが、今後は、毎年確認する体制に整備する。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている	11	1	・医師の指示書に基づき、個別で対応するが食事は提供していない。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12	0	・ヒヤリハット用紙を作成し、職員で情報について共有し、事故防止を常に意識するようにしている。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11	1	・虐待防止マニュアルを作成し、職員へ周知するとともに研修を実施している。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	10	2	・療育時は基本親子の参加であり、事業所独自での身体拘束は無い。	